

第6学年 社会科学習指導案

1 単元名 「明治の国づくりを進めた人々」 (東京書籍)

2 単元について

○ 本単元は、学習指導要領の内容(1)キ「黒船の来航，明治維新，文明開化などについて調べ，廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い，欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること」を受け，歴史を学ぶ意味を考えるようにさせる学習である。明治政府による近代化日本へ急速に転換を遂げる際の大きな社会改革について調べる中で，殖産興業や徴兵令などの諸政策を行い欧米諸国に負けない国づくりを目指して近代化を進めたことやこれらのことに関わる人々の思いを考えさせることをねらう。その際，当時の状況を踏まえながら，明治政府と国民の立場から諸政策の影響について検討することで，国家の利益と国民の生活のどちらを優先すべきかという論争点に気付かせ，根拠を基に自分の考えをもたせたい。これらのことにより，社会的事象の意味について理解を深めるとともに，多面的，総合的に考える力，自分の考えを説明したり，自分の言葉でまとめたりする力を育成するのに適した単元であると考えられる。

○ 児童は，歴史学習に意欲的に取り組んでいる。しかし，多くの児童が自分の考えを発表することに消極的で，アンケートでは苦手と答えている。また，テーマを決めて友達と話し合ったり，自分の考えを主張したりする活動を社会科で行った経験がある児童は少ない。これらのことから，まずは，調べたり，聞いたりして学んだことを，視点やキーワードを示した条件の下，自分の言葉で説明させるような手立てや支援が必要である。

また，自分の考えを論述することについては，自分なりの意思決定はできてきているが，その根拠については，事実やデータを理由とする傾向がある。この背景として，実態調査の結果や聞き取り調査から，自分の考えの理由を述べることについて，誤答や他者からの評価に対する不安を述べている児童が多いことが挙げられる。また，自己の考えを互いに聞き合い，評価し合う活動の経験が少ないことから，互いの考えを聞かせ，関心を抱かせる手立てと互いに認め合うことができる雰囲気づくりを重視しなければならない。さらに，自分の考えを聞いて欲しいという意欲やうまく言えたという技能の高まりについても併せてねらう必要がある。

○ 指導に当たっては，まず，ペリー来航時の国内の様子や幕府の反応などについて調べさせ，開国の背景を理解させる。この中で，アメリカをはじめとする欧米の国々の圧力により開国させられたことや不平等条約の締結は，国力の違いによるものであったことに気付かせる。次に，開国や不平等条約の締結と関連付けさせながら明治維新の概要を理解させる。この際，幕末と明治維新後，諸外国と日本，政府と自由民権運動など相対する資料を比較させることにより，学習問題Ⅰ「開国は日本にとってよかったのかどうか考えよう」について追究しようとする意欲を高める。これらのことにより，明治政府が殖産興業や徴兵令など欧米に負けない強い国づくりを目指した理由を考えさせる。このようにして，明治維新の諸政策は，新しい社会をつくる上でどのような効果があったのかを検討させ，明治維新についての自分なりの考えを構築させたい。

その後，考えの根拠を出し合わせるミニ討論を設定する。典型的な明治政府の政策として，「徴兵令」を取り上げる。この中で，国家と国民の立場における評価の違いを整理した上で「国家の利益を優先する」と「国民の生活を大切にすると」といった観点を創出させる。これを基に，学習問題Ⅱ「明治維新によって社会はよくなったのかどうか考えよう」を設定する。これにより，問題が明解になり，「明治政府が国家の利益を優先したのはよかったのか」という論題について，切実感を

もって本討論に臨むようになると考える。最後に、他の政策や視点について、追調査させ、本討論を行い、意見交流を通じた自分の考えをまとめさせる。

このように、自分の主張と根拠を段階的に再構成させながら述べさせていくことで、多面的、総合的に考える力、自分の考えを説明したり、自分の言葉でまとめたりする力を育成したい。

3 単元の目標

明治政府が殖産興業や徴兵令などの諸政策を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことについて資料を活用して調べ、明治政府の諸政策を検討し、社会の在り方について討論することを通して、理解を深め、根拠を明確にした自分の考えを表現できるようにする。

4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
○黒船の来航、明治維新、文明開化など江戸幕府による鎖国日本が、明治政府による近代化日本へ急速に転換を遂げる大きな社会改革に関心をもち、意欲的に調べている。 ○歴史を学ぶ意味やよりよい社会の在り方について考えようとしている。	○欧米諸国に負けない国づくりを目指して近代化を進めたことやこれに関わる人々の思いについて課題意識をもち、課題解決に向けて複数の立場や視点から考え、追究している。 ○よりよい社会の在り方について「国家の利益」や「国民の生活」を視点に、理由付けて判断し、自分の言葉で適切に表現している。	○文化財や地図、年表、その他の資料を活用して、欧米諸国に負けない国づくりを目指して近代化を進めたことやこれに関わる人々の思いについて必要な情報を集め、読み取っている。 ○必要な情報として調べたことを図や表にまとめている。	○明治政府が欧米諸国に負けない国づくりを目指して近代化を進めたことやこれに関わる先人の働き、人々の思いを理解している。

5 単元計画（全8時間 本時6/8）

過程	主な学習活動(○)	教師の働き掛け(○)	【主な評価】(・)	時配
学習問題を つかむ	○江戸時代の寺子屋や町の様子と明治時代の小学校や町の様子を比較し、相違点を調べる。 ○調べて疑問に思ったこと、もっと調べたいことを発表し合い、学習のめあてをつくる。	○相対する資料を提示し、比較させる。これにより、服装や建物などから人々のくらしが大きく変わったことに気付かせ、明治維新への関心を高めさせる。	・江戸時代から明治時代への変革について絵図を基に気付いたことや疑問に思ったことから、学習のめあてをもっている。 【関】	1
	○鎖国から開国へと大きく転換するきっかけとなったペリー来航とその目的を理解し、幕府の反応や国内の様子を知る。	○開国についてペリー、幕府、日本の人々などの立場から、当時の様子を調べさせる。これにより、複数の立場による見解の違いに気付	・開国のきっかけとペリー来航の様子について、様々な立場に立った必要な情報を集めて読み取ってい	1

	かせる。	る。 【技】	
	開国は日本にとってよかったのかどうか考えよう。《学習問題Ⅰ》		
調べる	○不平等条約が結ばれた背景と内容を理解し、日本が悪影響を受けていたことを知る。	○不平等といわれる「領事裁判権を認める」、「関税自主権がない」ことを絵図を使って補足説明する。	・外国と結んだ不平等条約の内容が分かっている。 【知】
	○ペリー来航から開国に至るまでの経緯を踏まえ、開国に関わる複数の社会的事象を関連付けて開国の影響を考える。	○前時までに理解させた、開国のきっかけから不平等条約の締結までを、図式化させることで理解の関連付けを図る。	・ペリー来航と不平等条約を関連付け、開国に至るまでの経緯が分かっている。 【知】
	○前時に考えたことを基に、日本が豊かで強い国づくりを目指していたことを知る。	○開国による負の影響と明治政府が求めた国づくりを関連付けて考えさせる。	・明治政府が、豊かで強い国づくりを目指した理由が分かっている。 【知】
	○開国の是非について、自分なりの考えを述べ、発表し合う中で、「国家」と「国民」の立場で見解が分かれていることを知る。	○自分なりの考えの理由付けを自分の言葉で表現させる。	1
	○明治維新で行われた諸政策について、目的や政策内容、問題点などを調べ、「国家」と「国民」で見解が分かれる典型的な事例として、「徴兵令」について、自分なりに評価する。	○明治維新で行われた諸政策について、「国家」と「国民」のそれぞれの立場で評価させ、「徴兵令」に限った自分なりの考えをもたせる。	1
考え・まとめる	○「徴兵令」の個々の評価について、「何を大切にすべきだったのか」を論点にミニ討論を行う。	○「徴兵令」についてのミニ討論の中で、「国家の利益」と「国民の安定した生活」との間で評価が割れてしまい、大切にすべきものが違っていることに気付かせる。これにより、違う考えを知りたいとの思いを喚起させ、討論への意欲付けとする。	・自分が大切に思う立場から、「徴兵令はよかったか」を評価し、自分の言葉で説明することができる。 【思】
	○「地租改正」、「殖産興業」の評価を加えることで、「国家の利益を優先する」と「国民の安定した生活」の観点を創出し、明治維新についての自分なりの考えをもつ。 (意思決定1)		・明治政府の政策について、相反する考えを比較し、自分なりの考えを表現することができる。 【思】
	論題 明治維新によって社会はよくなったのだろうか。《学習問題Ⅱ》		
	○明治政府の国づくりや国民の様子などについて、再調査、追調査をする。	○大日本帝国憲法や国会開設など明治維新の終末の出来事、個々が調べ足りない立場や状況を調べさせ、自分の評価に加えさせる。	・大日本帝国憲法と国会開設について、資料から読み取っている。 【技】
	○「明治維新によって社会はよくなったか」について討論を行い、意見交流を基に自分の考えを見直し、単元のまとめとしての意思決定をする。 (意思決定2)	○明治維新について、「国家の利益」と「国民の生活」を観点に討論させ、根拠を基に意思決定させる。	・日本の在り方について、自分の考えを見直し、複数の立場や視点から論述することができる。 【思】

6 本時の目標

明治政府の政策について、徴兵令を例として自他の考えを交流することで、「国家の利益」と「国民の生活」を視点にした見解の違いがあることに気づき、大切にしたい視点を基に明治政府を評価し、自分の考えを表現することができる。

7 展開(全8時間 本時6/8)

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)と評価【】
1 学習のめあてを確認する。	○前時までに大切にしたい立場を確認し、数名の児童に意図的に「徴兵令」についての評価を発表させることで、評価が違いについて聞いてみたいという意欲をもたせる。
めあて 「徴兵令」の評価を基にして明治政府の政策について考えよう。	
2 「徴兵令」についての評価を基に、ペアでミニ討論会の準備をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・主張と根拠の確認 ・根拠を示す準備 ・役割の確認 </div>	○同じ評価のペアで、ミニ討論会の準備を行わせる。自分の考えを表出することについて安心感をもたせるために、同じ評価同士のペアで話す練習をさせる。 ○話す必然性と発言意欲を喚起するために、話し合う目的として、「友達の考えの根拠を聞いて考えを深めるため」と「根拠を基に友達を説得するため」を示す。
3 ミニ討論会を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・相違点を見つける。 ・相手の根拠に質問意見を言う。 ・必ず一人一回は発言する。 </div>	○ランダムに評価の違うペアを作り、ミニ討論会を行わせる。その際、相手の根拠をよく聞くこと、根拠に対して質問や意見を言うことを確認する。 ○自分たちの評価表を見せながら説得するようにさせることで、話している内容について見えるようにする。
4 ミニ討論の様子を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 社会的な問題 (研究や論争の材料となる事件) 「明治政府は、『国家の利益』を優先した政策をしていたこと」 </div>	○グループでのミニ討論で出た内容や納得できなかったことについて発表させる。 ○児童の発表を基に、論点になったところを視覚的に整理することにより、「国家の利益を優先する」と「国民の安定した生活」の2つの観点を創出させる。
5 これからの学習問題(学習問題Ⅱ)を立てる。	○徴兵令の是非について、自分なりの考えをミニ討論の場で表出できたことを賞賛し、もっと話したり、聞いたりして考えたいという意欲をもたせる。 ○徴兵令の是非は、明治政府全体の政策の評価となるのではないかと揺さぶりの問いを行い、明治維新の諸政策が社会にとってよかったかが問題で、一つの政策では判断できないことに気付かせ、本討論の論題を設定する。
論題 明治維新によって社会はよくなったのだろうか。《学習問題Ⅱ》	
6 今日の学習を振り返る。(意思決定1) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 振り返りのポイント 徴兵令を例にした自分の考えと、明治維新が社会にとってよかったかを評価するためにもっと調べたいこととその方法 </div>	○振り返りのポイントとして、判断するめやすを児童と共有する。 ○徴兵令を例にした判断だけでなく、明治維新によって社会はよくなったのかを判断する際にもっと調べておきたいことを出させることで、自分の考えの根拠を探そうとする課題意識をもつことができるようにする。 【評価】

8 本時の評価

本時の 評価規準	明治政府の政策について、徴兵令を例として自他の考えを交流することで、「国家の利益」と「国民の生活」を視点にした見解の違いがあることに気づき、大切にしたい視点を基に明治政府を評価し、自分の考えを適切に表現している。 (社会的な思考・判断・表現)		
判定基準 (判断のめやす)	「十分満足できる」状況(A)	「おおむね満足できる」状況(B)	「努力を要する」状況(C)
	明治維新によって社会がよくなったかどうかについて、自分なりに評価し、必要な情報(立場や視点)と調べる方法を記述している。	明治維新によって社会がよくなったかどうかについて、自分なりに評価できている。	(B)に達していない記述
→(B),(C)と判断した児童への支援策		→どんなことをどのように調べておくとよいのかを問い、板書を基に考えさせ付加させる。	→「国民」と「国家」で対立した際の視点から自分が大切にしている視点を板書を基に選択させ、書き方を示しながら記述させる。
評価方法	ワークシートの記述		